

## 特別講演 1

### 「我が国に於けるフィブレート剤の臨床的意義

### ～FIELD の結果を踏まえて～」

名古屋市立大学大学院医学研究科 生体機能分子医学講座 教授

横山 信治 先生

HMG-CoA 還元酵素阻害薬によって動脈硬化症の危険因子の高 LDL 血症の是正は容易となって、欧米に放ける多くの大規模介入試験が冠状動脈疾患の予防と延命に役立つことを確かめてきました。

日本人の冠状動脈疾患の発症率は欧米諸国の 3～5 分の 1 であり、この差が何によるものかは分かりません。高脂血症管理から見た我が国の動脈硬化症予防に放ける課題は、1) 冠状動脈疾患発症への高 LDL 血症の寄与、及びその是正の疾患予防に対する寄与の可能性を、公衆衛生学的に正確に把握すること、2) その他の危険因子の寄与を評価してその対策を検討すること、と言えます。後者には、高トリグリセリド血症、低 HDL 血症などが含まれ、我が国では、公衆衛生学的には LDL の上昇よりも重要な危険因子であることが認識されてきています。最近、高トリグリセリド血症の治療薬フィブレートによる冠状動脈疾患の大規模予防研究 FIELD の結果が発表され、LDL 低下と同様の虚血性心疾患の予防効果が示されました。